



# 国立大学法人 東京学芸大学

## 1 「経済生活設計セミナー」 の目的

西東京地区国立大学法人等機関に所属するおおむね20歳代・30歳代の若手教職員を対象に、社会人として経済的に自立し、よりよい暮らしを送っていくための経済生活にかかわる基礎知識の習得を目的として行われました。

15:15 休憩  
15:25 保険加入のポイント  
ローンとクレジットの基礎知識  
金融取引、インターネット取引の留意点  
職場の福利厚生制度について  
(福祉事業、短期給付、退職手当、公的年金の基礎知識)

## 2 セミナーの実施内容 (プログラム等)

日 時：平成28年7月29日(金)  
14:00～17:00

会 場：東京学芸大学 第一会議室  
(本部棟3階)

対 象 者：おおむね20歳代・30歳代の  
若手教職員  
・東京学芸大学  
・東京外国語大学  
・東京工業高等専門学校  
・国立天文台  
・大学改革支援・学位授与機構

参加人数：27人

日 程：  
13:30 受付  
14:00 開会  
14:10 経済生活設計の必要性  
経済生活設計表の作成方法と活  
用法  
まとまった資金をつくるための基  
礎知識  
(金融商品にかかわる基礎知識)

## 3 特に力を入れている点・ 工夫を凝らした点や特徴

定年等により退職が予定されている教職員を対象とした退職準備型セミナーは、近年、比較的多くの機関で企画されていますが、今回のセミナーは20歳代・30歳代の若手教職員を対象に経済生活にかかわる基礎知識の習得をめざして企画されました。研修内容として「経済生活設計の必要性・経済生活設計表の作成方法と活用法・まとまった資金をつくるための基礎知識(金融商品にかかわる基礎知識)」、「保険加入のポイント・ローンとクレジットの基礎知識・金融取引、インターネット取引の留意点・職場の福利厚生制度について(福祉事業、短期給付、退職手当、公的年金の基礎知識)」と題した興味深い講話が行われ、参加者は熱心に聞き入りました。

現状把握による生活設計表の作成や、貯蓄のポイント等、今後の資金づくりに関する部分と、保険やローン、クレジット、その他、金融や福利厚生制度等に関する概要や留意点に分かれた説明により、違った観点から将来設計を考えるよい機会となるよう工夫をしました。

国立大学法人東京学芸大学は、平成28年度に経済生活設計セミナーを開催しました。主に20歳代・30歳代の若手職員を対象に、ライフステージの各場面で身近に接する機会の多い、経済生活にかかわる基礎知識を提供し、社会人として経済的に自立することなどを支援するために実施したものです。

## 4 参加者の反応・アンケート結果

参加者からは、「自分自身の経済状況についてあまり把握していないことがわかったので、月々の計画を立てるようにしようと感じた」、「保険やクレジットなど、若手にも身近な内容でとても参考になりました」などの感想が寄せられました。

反面、職場の福利厚生や退職手当・公的年金の基礎知識については「もう少し詳しい話を聞いてみたかった」「複雑な年金制度については、時間的に今回の内容に含めなくてもよかったのではないかな」などの要望もみられましたが、90%を超える参加者から「大いに参考になった」「参考になった」という回答があり、非常に高い評価を得られました。



いて今後の課題として検討し、改善したいと思います。また、資料として「保険のパンフレットなどがあれば、もっとイメージしやすかった」といった意見もあり、配布資料についてもさらなる工夫が求められます。



(国立大学法人東京学芸大学総務部人事課  
職員係 土屋 雅史)

## 5 苦勞した点・今後の課題

27人の参加者がありましたが、講義の関係などで、教員の出席者が4人であったことや、「今までこのようなセミナーを受ける機会がなかったことが残念」といった意見もあったことなどから、実施時期や実施回数につ